

公務員試験のための数的処理 I

科目ナンバリング CAE-215
選択 2単位

杉坂 郁子

1. 授業の概要(ねらい)

- ・自ら頭を使って考える授業
- ・グループ学習を通して学生が互いに学び合う授業
- ・学生が前に出て解き方を説明できるようになる授業
- ・大卒公務員試験の数的推理の問題が解けるようになる授業

2. 授業の到達目標

- ・論理的思考力を身に付ける。
- ・人と学び合うことで、公務員にとって必要なコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・前に出て説明することで、公務員にとって必要な説明能力を身に付ける。
- ・公務員試験の数的推理の問題に対応出来る力を身に付ける。

3. 成績評価の方法および基準

1年間に数回実施する復習テスト(後期Ⅱも前期Ⅰの内容も含めて出題する)の結果70%
毎回の授業で提出する振り返りシートの内容及び授業への取組状況(欠席・遅刻の減点を含む)30%

4. 教科書・参考文献

教科書

手作りのプリントや資料を毎回配布する。

5. 準備学修の内容

- ・毎回の授業内容の基本的な知識・公式等は身に付けてから授業に臨むよう予習をしてくる。
- ・授業の最後に、当日使用したプリントをもう1枚配布するので、復習として自宅で自力で解いてくる。

6. その他履修上の注意事項

- ・1回目の授業で、授業方針・座席決め・グループ決めを行うので1回目から必ず出席すること。(どうしても出席出来ない者は事前に研究室へ来ること)2回目以降の突然の受講は出来ない。
- ・グループ学習を行うので、座っているだけで、人と関わりたくない者には向かない。グループで解き方を教え合ったり、前に出て説明してもらったりする。教員の一方的な講義だけを望むものには適さない。
- ・大卒公務員試験向けの問題を取り扱うので、高卒程度公務員受験者には難しすぎる内容なので注意。
- ・授業は中学校、高校の数学の復習の時間ではない。中学の数学の知識はもちろん「集合、順列組合せ、確率、 n 進法、数列」などの部分について、自宅で予習・復習するために数Ⅰ、数A、数Ⅱの高校の教科書等が必要。毎回、予習、復習しない者はついてこれない。
- ・前後期Ⅰ、Ⅱの1年間で目標の達成を目指すよう計画してあるので、後期のみの履修は出来ない。後期のテストにも前期の内容を出題する。
- ・全体の学習効果を高めるため授業規律を重んじる。遅刻は出来ない。体調管理をしっかりして欠席は極力しないこと。

7. 授業内容

- | | |
|--------|----------------------------|
| 【第1回】 | 授業の進め方・座席決めグループ決め・判断推理(暗号) |
| 【第2回】 | 判断推理(暦算、その他の判断推理) |
| 【第3回】 | 判断推理(真偽、その他の判断推理) |
| 【第4回】 | 命題と論理 |
| 【第5回】 | 1回～4回の復習テスト |
| 【第6回】 | 集合算(基礎編) |
| 【第7回】 | 集合算(応用実践編) |
| 【第8回】 | n 進法(基礎編) |
| 【第9回】 | n 進法(応用実践編) |
| 【第10回】 | 1回～9回の復習テスト |
| 【第11回】 | 文章題 仕事算(基礎編) |
| 【第12回】 | 文章題 仕事算(応用実践編) |
| 【第13回】 | 整数(基礎編) |
| 【第14回】 | 整数(応用実践編) |
| 【第15回】 | 前期復習問題 |